

## 「全鍍連」 2023年3月号 巻頭言

全鍍連 環境副委員長 吉玉 和生 (吉玉精鍍(株) 代表取締役専務)

「環境問題は永遠に続く道のり」



全国鍍金工業組合連合会環境委員会の副委員長を仰せつかっております九州めっき工業組合副理事長の吉玉です。九州めっき工業組合においては、「環境リサイクル委員長」という立場です。その委員会は約3か月に一度、福岡県工業技術センター機械電子研究所、福岡県産業・科学技術振興財団の担当者、そして環境リサイクル委員で環境に関連する様々なテーマについて協議、情報交換を進めているところです。過去に亜鉛や錫めっき排水・廃液からのマテリアルリサイクルや硬質クロムめっき液の不純物除去さらに今年度は各社のSDGsへの取り組みなど有意義な情報交換・提供を行っています。錫めっき排水廃液からのマテリアルリサイクルや硬質クロムめっき液不純物除去による産業廃棄物の削減は弊社を含めて数社にて推進実行中です。活動する際は、福岡県や宮崎県の公的補助金を積極的に活用しながら研究開発や設備の導入などを進めています。

全鍍連環境委員会では昨年度から優良環境事業所認定制度の見直しを行いました。一層の環境管理に直結したエビデンスを各社独自に確認提示することによって審査基準を厳密化し組合員企業の社会的価値を高めることに繋がればと期待しています。

さて昨年11月にはエジプトでCOP27が開催されました。閉幕にあたってグテーレス国連事務総長が声明を発しましたが、その一部は以下の通りです。

「越えてはならない一線は、私たちの地球が1.5℃（気温上昇を1.5度に抑えるパリ協定の目標）の気温上限を超えてしまうという線です。1.5℃の希望をつなぎとめるためには、私たちは再生可能エネルギーに大規模な投資を行い、化石燃料への中毒を断ち切らねばなりません。私たちは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のワクチンをめぐる競争の際のように、開発途上国が最下位に終わるようなエネルギーの争奪戦を避けなければなりません。…中略… COP27は多くの宿題を残して閉幕しましたが、時間は残されていません。私たちはすでに、パリ協定と2030年期限の中間点にいるのです。私たちは総力を挙げ、正義と野心を推進しなければなりません。」

第27回気候変動枠組条約締約国会議：COP27（締約国は欧州連合を含め約200の国）はウクライナ戦争でエネルギー危機が起こっている最中での開催と言う事もあり各国の思惑や利害関係で困難を極めた感があります。日本国内でも環境に対する考え方は様々で地域や周囲の状況によって違いがあることは当然だと思いますが、宇宙船地球号乗務員の一人として持続可能な方法を模索し続けることに責任は有るはずで

一人一人の小さいかもしれない行動・活動が将来の子孫の永続に繋がります。これからの事業も、永遠に続く環境対策への道りを確実に歩んでいきたいと考えています。